

膝前十字靭帯再建術後のスポーツ復帰時における 再受傷の怖さと膝関節機能との関連

○佐藤 正裕(さとう まさひろ) (PT, AT)¹⁾, 間瀬 泰克(MD)²⁾, 中井 大輔(MD)²⁾,
河端 将司(PT)³⁾

¹⁾ 八王子スポーツ整形外科 リハビリテーション部門

²⁾ 八王子スポーツ整形外科

³⁾ 相模原協同病院 リハビリテーション室

【はじめに】

膝前十字靭帯（以下 ACL）再建術後のスポーツ復帰を阻害する因子として、疼痛や膝関節機能のほかに再受傷への怖さが影響することが報告されており、復帰後もこの怖さが継続する症例は多い。しかし、怖さと膝関節機能の関連について詳細な検討はされていない。今回はスポーツ復帰時に再受傷の恐さを自覚する症例の膝関節機能について調査することを目的とした。

【方 法】

対象は S 病院にて ACL 再建術を施行され、スポーツ復帰後に定期診察にて問診と膝関節機能を評価し得た 17 名（男性 3 名、女性 14 名）とした。対象者には本研究の目的を説明し、署名にて参加の同意を得た。まず問診にてスポーツ活動中の疼痛や再受傷の恐さの有無について聴取し、膝関節機能では関節可動域制限、等速性膝伸展・屈曲筋力と脚伸展筋力、前方・側方ホップ、脛骨前方移動量患健差、pivot shift test を評価した。統計処理は再受傷の怖さを自覚する群としない群の膝関節機能の比較を単変量解析を用いて検定した ($p>.05$)。

【結果および考察】

スポーツ復帰時期は 8.1 ± 0.4 ヶ月で再受傷の怖さを自覚した症例は 8 名であった。2 群間の比較では疼痛の有無、関節可動域制限の有無、等速性膝伸展・屈曲筋力、脚伸展筋力、前方ホップ、脛骨前方移動量患健差、pivot shift test に有意差を認めなかったが、側方ホップで有意差を認めた ($p>.05$)。ACL 再建術後のスポーツ復帰時期に怖さは側方の動きと関係することが示唆された。